

りんご褐斑病 病徴の種類と見分け方

- 1 りんご褐斑病は初め、葉表に黒紫色、紫色または褐色の小病斑が発生する。その後は大型の褐色病斑に拡大し、症状が激しい場合には次第に黄変落葉する。
- 2 本病の特徴として、葉表の病斑上に分生子層（小黑点）が形成される。
- 3 形成された分生子層と分生子の有無を確認することで、斑点落葉病等の類似病害と見分けることができる。

【発生初期の病徴】

- 1 初め、黒紫色小病斑（図1）や紫色小病斑（図2）、褐色小病斑（図3）が果そう葉等の葉表に発生する。いずれも葉表の病斑上に分生子層（小黑点）が確認される。
- 2 なお、紫色小病斑や褐色小病斑は、7月以降に多数見られる場合がある（図4）。

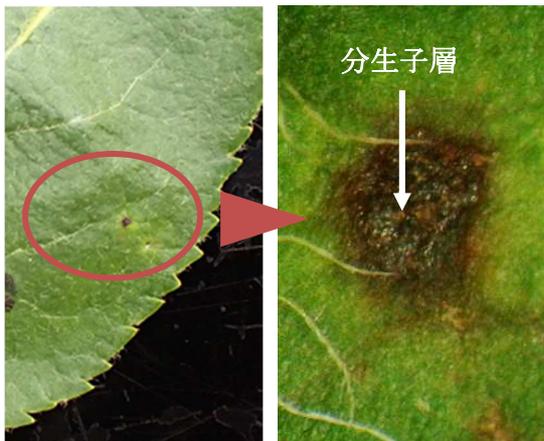


図1 黒紫色小病斑（直径1.0 mm程度）



図2 紫色小病斑（直径1.5～3.0 mm程度）

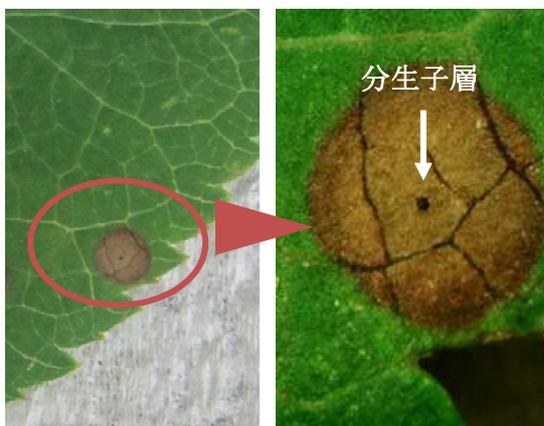


図3 褐色小病斑（直径1.5～3.0 mm程度）



図4 紫色小病斑や褐色小病斑が多数見られる様子（7月以降）

【発生初期以降の病徴】

- 1 発生初期以降は病斑が拡大し、大型の褐色病斑（図5）が見られ、次第に黄変落葉する（図6）。病斑の拡大に伴い、分生子層は多数形成される。また、褐色病斑が見られず分生子層のみが見られる場合もある（図7）。
- 2 多発生園地では、まれに果実のこうあ部に病斑を生じることがある（図8）。



図5 褐色病斑



図6 黄変する発病葉



図7 分生子層のみが見られる様子



図8 果実の病斑

【類似病害との見分け方】

- 1 りんご褐斑病の特徴として葉表の病斑上に分生子層（小黑点）が形成される。
- 2 このため、分生子層の有無を10倍ルーペ等で確認（図9）し、分生子層にセロハンテープ等を貼付け、分生子（図10）を顕微鏡で確認することで斑点落葉病等の類似病害と見分けることができる。

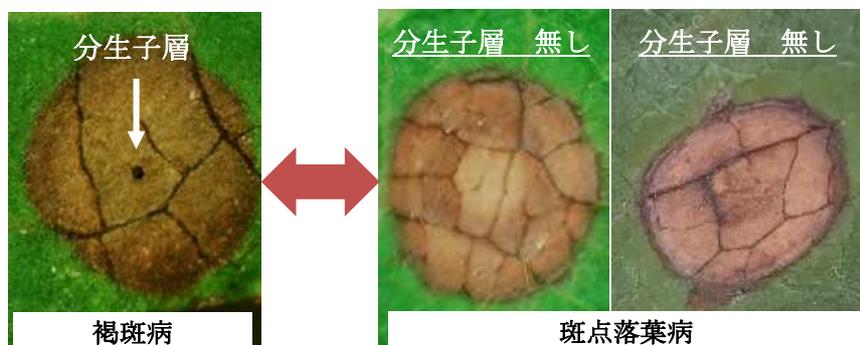


図9 褐斑病（左）と斑点落葉病（右）の病斑比較



図10 褐斑病菌の分生子
(顕微鏡400倍)

問い合わせ先

山形県病害虫防除所

執筆者：横田 誠

TEL：023-644-4241

e-mail：ybyogaichu@pref.yamagata.jp

禁無断転載